

000102 はじめに神（創造主） 創世記 1 : 1 ~ 2

牧師 池田 豊

I. “はじめに”の前には何かがあったのか、何もなかったのか

A. 主イエス・キリストのユニークな祈り

新約聖書には、主イエス・キリストが奇妙とも思える、とてもユニークな祈りを父なる神にささげておられます。このような祈りです。

父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。 ヨハネ17:24;

今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。ヨハネ17:5

B. 主イエス・キリストは宇宙万物の創造以前から存在しておられました 1ペテロ1:20

キリストは、世の始まる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために、現われてくださいました。 1ペテロ1:20

C. 私たちの救いも私たちの努力や行いによらないという計画が宇宙万物の創造以前にあらかじめ定められていました 2テモテ1:9

神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、 2テモテ1:9

II. 神とはどのようなお方か

A. 日本語の「神」

日本語の聖書では、創造主のことが「神」と翻訳されていますが、実は、この神という漢字は中国語では、創造主のことを意味する言葉ではなく、たたりをもたらず悪霊をも意味する言葉です。風や雷の背後にあると考えられたスピリッツ、霊のことを風神とか雷神とかいう言葉で表現していることからみても明らかです。

B. 韓国語の「ハナム」

韓国でも聖書の創造主は、神とは区別され、「ハナム」という言葉が使われています。現在の日本語でも、「ハナ」という言葉に残っていますが、「ハナ」からあの人があやしいと思っていたという表現にあるように、「ハナ」とは最初からという意味です。韓国語の「ハナム」とは、「最初様」、「一番

はじめから存在しておられるお方」という意味です。

C. 過去の日本語で聖書の創造主に匹敵する言葉

大昔から、中国語では聖書の創造主のことは神とはいわず、上帝、シャンティあるいは、天、ティエンと言いました。日本語でも福沢諭吉が「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と言った表現にあるように「天」ということばは、聖書の創造主を意味しています。

D. エロヒム singular, dual, pluralのいずれか

創世記1章1節には、不思議なことに主語は三つ以上の複数形なのに動詞“バラ” (1, 21, 27)は単数形が用いられています。父、御子、御霊の三位一体の創造主が一致して創造の御業をなされたことをこの事は示しています。そのような表現は他にもいくつかあります。

1. 人間の創造に於いて

創世記1:26-27 われわれに似るように、われわれのかたちに人を造ろう
創造主は、このように人を御自身のかたちに創造され、創造主のみかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された

2. 人間の墮落に於いて

創世記3:22 見よ、人はわれわれのひとりのようになり善悪を知るようになった

3. 人間の裁きに於いて

創世記11:7 さあ、降りて行って・・・ Let Us go down・・・

4. 人間の救いに於いて

イザヤ6:8 「だれを遣わそう。 だれがわれわれのために行くだろう。」
と言っておられる主の声を聞いたので、言った。「ここに私がおります。
・・・」

E. 三位一体の主が万物創造の以前にいらっしゃったことが強調されている

1. ヨハネ1:1-3

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。 ヨハネ1:1-3

a. はじめにことばがあったの“あった”は未完了時制（インパーフェクト）で記述されています。その意味は、ことばはすでに存在しておられた。そして、今も存在し続けておられるということです。

b. すべてのものはこのお方によって造られた、の“造られた”は不定過去（アオリスト）形の時制が用いられています。これはある時の時点

でアクションが起こされその結果がずっと続いていることを意味しています。

2. ヨハネ1:14

ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

ヨハネ1:14

このことばは、人となって、肉体をとるものとなられた (became) と記されています。

a. ヘブル1:3, 6-10

御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の全能者の右の座に着かれました。 ヘブル1:3

さらに、長子をこの世界にお送りになるとき、こう言われました。「神の御使いはみな、彼を拝め。」また御使いについては、「神は、御使いたちを風とし、仕える者たちを炎とされる。」と言われましたが、御子については、こう言われます。「神よ。あなたの御座は世々限りなく、あなたの御国の杖こそ、まっすぐな杖です。あなたは義を愛し、不正を憎まれます。それゆえ、神よ。あなたの神は、あふれるばかりの喜びの油を、あなたとともに立つ者にまして、あなたに注ぎなさいました。」またこう言われます。「主よ。あなたは、初めに地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。 ヘブル1:6-10

b. コロサイ1:16-17

なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。 コロサイ1:16-17

c. 創世記1:1-2, ヨブ33:4

初めに、神が天と地を創造した。地は形がなく、何もなかった。やみが大いなる水の上であり、神の霊は水の上を動いていた。 創世記1:1-2

神の霊が私を造り、全能者の息が私にいのちを与える。 ヨブ33:4

創世記1章1節には、不思議なことに主語は三つ以上の複数形なのに動詞“バラ” (1, 21, 27) は単数形が用いられています。父、御子、御霊の三位一体の創造主が一致して創造の御業をなされたことをこの事は示しています。

III. 創造主の御命令によってこの世界は造られた

A. この見える世界は、見えるものから生じたのではない ヘブル11:3

この宇宙や大自然、目に見える世界は、見えるものから生じたのではないと聖書は言います。

信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。 ヘブル11:3

B. 自然界や物質世界、宇宙そのものは作品ではあっても創造主御自身ではない

自然界や物質世界、宇宙そのものは作品ではあっても創造主御自身ではありません。レオナルド・ダビンチは自画像を描きました。キャンバスに描かれた絵は、書いた作者に似ています。しかし、描かれた作品は画家本人ではない。それと同じように宇宙や大自然、動物や人間は創造主の作品であり、礼拝の対象となる創造主ご自身とは区別されなければなりません。

C. 創造主のご存在を被造物は示している

ちょうど作品が制作者のある一面を表現しているように、被造物は創造主の御性質や知性をあらわしています。

1. 宇宙と原子

巨大な宇宙空間と極微の世界である原子を見ると、そのデザインはとてもよく似ています。

- a. 銀河系には2000億～4000億個の太陽のような恒星があると言います
- b. その恒星一つの大きさは地球の150万倍以上の大きさだとも言われます
- c. 銀河系宇宙のようなものは少なく見積もっても10万個はあるそうです
- d. 詩篇19:1

天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。 詩篇19:1

宇宙はただ偶然、でたらめに存在するわけではありません。創造主の英知によって一定の秩序のもと運行しているのです。私たちの時計は、天体の運行に合わせて作られていますが、時の刻みは極微の原子の運動とも関連があるため、水晶時計が1927年にアメリカのウォーレン・マリソンによって発明されました。水晶時計はそれまでの小型の時計と比べてはるかに正確であり、今では一番身近な時計になっています。

驚くべきことに、地球が宇宙空間のなにもないところに浮かんでいるということをも聖書は記しています。今から三千数百年前に書かれた旧約聖書、ヨブ記の26章です。

神は北を虚空に張り、地を何もない上に掛けられる。神は水を濃い雲の中に包まれるが、その下の雲は裂けない。神は御座の面をおおい、その上に雲を広げ、水の面に円を描いて、光とやみとの境とされた。 ヨブ26:7-10

地動説を最初に大きな問題提起として提出した、コペルニクス（1473年～1543年）は、聖書を信じるクリスチャンで、聖職者でした。コペルニクスの地動説が述べられている「天球回転論」が出版されてから50年後、その影響を受け、生涯の進路が大きく変えられた一人の青年がおりました。彼は、牧師になるため、聖書を学んでいたのですが、彼は、「宇宙という書物」は、創造主の設計された数学的法則の公式、つまり、数字で書かれていると考えたのです。そして、人間の言葉で書かれた創造主のメッセージ、聖書を学ぶと共に、宇宙に書き記された数学的秩序を探求する学びも創造主の栄光を現す道の一つだと気づいたのでした。彼の言葉を引用します。

「自然という書物の中に記されていることを人間に知ってほしいと願っておられる創造主の栄光のために私は、神学者になるつもりでした。しかし、今こそ、天文学においても、創造主に栄光を帰すことができました」

この文章は1595年10月3日恩師のメストリン教授に宛てた手紙にしるされたものです。この発見を彼は、翌年『宇宙の神秘』という題の書物として世に発表しました。

この青年とは、【惑星の軌道は楕円軌道である】という第一法則と【惑星の公転速度は、太陽に近いときはより速く、逆に太陽から離れるほどに、遅くなる】という第二法則、そして、さらに、【各惑星が太陽の周りを一周する周期の二乗は、太陽からその惑星までの平均距離の三乗に比例する】という第三法則を発見した、ヨハネス・ケプラーです。ケプラー（1571年～1630年）は、牧師になるため、聖書を学んでいました。しかし、聖書と共に自然科学にも興味を抱いていた彼は、「宇宙という書物」は、創造主の設計された数学的法則の公式、つまり、数字で書かれているのではないかと考えるようになり、人間の言葉で書かれた創造主のメッセージ、聖書を学ぶと共に、宇宙に書き記された数学的秩序を探求する学びも創造主の栄光を現す道の一つに違いないということにケプラーも目覚めたのでした。

2. 極微の世界に住む生物、植物や動物、そして人体のDNAにあらかじめプログラムを書き込んだのはいったい誰なのか

a. 泥水を吸って、なぜあれほどまでバラエティーに富んだ色の花が咲くのでしょうか

飯田深雪さんは、1903年生まれのアートフラワーという日本では新しい芸術の創設者でもあり料理研究家でもあられます。現在104歳になられますが、現役で活躍しておられます。飯田深雪さんが、イエス様を救い主と信じ受け入れ、バプテスマを受けられたのは三十代を過ぎてからのことでした。

料理の研究のため世界を巡り始めて、飯田深雪さんは北欧には、冬になると太陽の光はほんの数日しか当たらないという地域もあるのにそこには、日本人よりずっと体格も良く立派な文化を育む街があったことに気づき深雪さんはとても不思議に思いました。彼女はこう言っています。

「どうしてだろうと思ったら、そこにはその気候にふさわしい食べ物があるのです。それは、口に入れば体内でビタミンAに変わる野菜だったり、極寒の地にはゼラチン質をたっぷり含んだ天然のサケであったりします。日本のサケとはまったく違い、不凍性のゼラチンを多く含んだサケの身は、薄く削いでもやわらかな布きれのようにしっとりしているのです。」

そう語る深雪さんは、これは、単なる偶然や自然発生の産物ではないと気づきます。

「それはもはや人間の営みではありません。地球のどこに住んでいても健康に生きていけるよう用意がしてあることを発見して、神の思し召し、大自然の恵みを強く感じた経験でした。」

毎年のように世界を旅し、ヨーロッパはもちろん、北欧からアメリカ、カナダ、メキシコ、タイ、インドネシア、フィリピンなどのアジアの国々まで回って、三十数カ国以上の国々を訪れた深雪さんは、さまざまな食材、料理、文化にふれました。そして創造主がご用意下さった自然はいつも私たちをその地にふさわしく育むにふさわしい環境を備えているということを思わされるのでした。

「つまり、陽射しの強い夏には、ハウレンソウはいらないのです。旬でない時期に人工的に栽培した野菜の栄養価は自然に育ったものの半分とも言われます。お祝いの席には欠かせない見事な鯛をいただくこともありますが、三月の半ばから四月初めの鯛は、それはそれは美味しいものですが、いくら祝いの席とはいえ、旬の時以外の鯛は、美味しいとは感じません。料理を教える者にとって、その地に育つ旬の食材が最も美味しく健康にもよいという真理を得たことは大きな収穫でした。以来、私の講義では、必ず自然の恵みについて、旬の食材について話し、旬の食材を用いて教えております。」

「スカンジナビアの北のほうに行くと、冬になるとひと月に三日しか陽の光を見ないという地域もあります。そこで驚いたのは、どうしてこんなに太陽のない国に住みながら、日本人よりずっと背も高く立派な体格の人が多いのだろうということです。太陽の光がなければ植物でさえ、モヤシのようにひよろひよろとしてしまいます。どうしてだろうと調べていたら、かの地には食物として食べることで日光に当たったと同様の栄養効果のあるものが自然に採れる

ようになっているのです。

暑いインドではどうでしょう。暑さで減退しがちな食欲をそそるスパイスがたくさん採れます。朝、散歩に出ると、住宅地の若葉ですら鼻をつまみたくなくなるくらい強烈な匂いを発します。インドでは、葉や木の皮や花びらですらスパイスになります。これらのスパイスは、暑いインドでも一年中腐りません。ちなみに、本式のスパイスを入れて作ったプラムケーキは一年経っても腐らない。そのため、西欧では、結婚式に焼いたケーキの一部をブレンダーで湿らせたナプキンにくるんで缶に入れておき、一年後の結婚記念日に夫婦で食べるという習慣が生まれたのです。

もちろん、太陽光の少ない北欧の野菜は、有り余る太陽光のインドでは育ちません。なぜなら、その地に必要のないものだからです。見えない力で、その地に住む人にそのとき必要なもの、人が生きていくのに欠かせないものが配されていることを知り、私は深く感動しました。神様は北欧に保存がきいて食べると体内でビタミンAに変わる野菜を、インドにスパイスを与えてくださいました。すべてに必然があり、神の用意されたものであることを強く感じます。日本では、春先になるとあくの強いフキノトウやワラビ、ゼンマイ、タケノコなどが出てまいります。アルカリ性の強いこれらも、この時期、人間の身体に必要なものなのです。自然が作り出した匂いのものが人間の身体にどれほど必要かは、夏のホウレンソウを見れば分かります。匂いを無視した夏のホウレンソウには冬場の半分しか栄養分はありません。今の日本は、匂いを無視した人工的な食べ物があふれています。どうぞ、神様が私たちに何を与えてくださっているのか、考えて口にしていいただきたいと思います。」そう飯田深雪さんは言います。

世界中その土地、そこに住む人、その時期に必要なものが配材されていることを知った飯田深雪さんは、この豊かな自然をお与え下さった創造主への畏敬の念を禁じ得ませんでした。自然界に現わされた数々の神秘、これらはもちろん人間の仕業ではありません。これこそ自然の恵み、創造主の御業なのだと飯田深雪さんは確信したのです。

b. 緑の草と水だけで真っ黒な牛がなぜ真っ白なミルクを出すことができるのでしょうか

c. チョーチンアンコウに明かりをつけたのは誰でしょうか

d. 蛍のおしりはなぜ光るようになったのでしょうか

e. 電気ウナギやナマズはなぜ自家発電装置を持っているのでしょうか

f. コウモリはどうして超音波レーダーで飛行できるようになったのか

g. フクロウチョウにフクロウの顔を描いたのはだれ？

東大名誉教授 竹内 均 編 頭にやさしい雑学読本 3 P.221-223には次のような興味深いチョウチョウについての記述が掲載されています。



奇想天外な方法で身を守っている代表的なものとしては、ブラジルからコロンビアにかけて生息しているフクロウチョウがあげられるでしょう。

このチョウが羽を広げて逆立ちをしたかっころを見ると、体の形や模様がフクロウの顔にそっくりなのです。特にリアルなのが、フクロウの目玉の模様です。金色の虹彩、黒い大きな瞳孔、それに、その瞳孔には白く半月形の輝きまで記されていて、これがチョウであるとはどうしても信じられません。ずっと見ていると、猛禽類のフクロウににらまれていそうな気さえしてきて、恐くなるくらいです。

実は、それがフクロウチョウのねらい目。小鳥が襲ってくると、体をさっと逆さまにして羽を大きく広げ、この目玉でにらみすえるのです。小鳥にすればびっくりです。好物のチョウにありつけると思っていたら、突然目の前に、自分の天敵であるフクロウが現われてにらんでいるのですから、大あわてで逃げていきます。これでチョウは危機を救われるというように、何と、自分の天敵の天敵に化けるといふ、実に頭のいい方法で護身を図っているのです。

このように、生物がほかの生物やものと同じような姿や匂い、音、動き方をひて化けることを擬態(ぎたい)といいます。枯れ葉に似たコノハチョウや枝に化けるナナフシ、それにシャクトリムシなどがよく知られていますが、なぜ、自然界でこのようにことがうまく行なわれるのかは、まだ謎のままです。

このフクロウチョウの場合も、どうして自分の天敵の小鳥の天敵がフクロウだとわかったのか、あるいは、だれがどうやって、ここまでリアルにフクロウの顔を観察し、写生したのか・・・という疑問が真っ先に浮かびます。

フクロウチョウの生態を研究した時、日本を代表する進化論者の東大名誉教授、竹内均博士でさえ、次のように言わざるを得ないのです。よくお聞き下さい。

夜行性のフクロウと昼行性のフクロウチョウが遭遇することはあまりないでしょうし、だいたい、チョウが自分と直接関係のない天敵関係を知ること自体あり得ないように思えます。

もし、これが本当に天敵を威嚇するためのものであったとすれば、どうしてもそこには、神のような第三者の存在が意識されてしまいます。

聖書の言葉

創造主について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは創造主が明らかにされたのです。創造主の、目に見えない本性、すなわち主の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。 ローマ1:19-20

h. あなたや私の目に見えないほどの一細胞に個人の情報データが、圧縮されたかたちで完全にコピーされているのは偶然と言えるでしょうか

最近、遺伝子レベルでの研究が進み、私たち人間は、私たち以外の、私たちよりもはるかに優れた知性によって、あらかじめプログラムされたのに違いないと主張する科学者が増えてきています。でたらめのくりかえしがただ長い期間続いたからといって、その結果、偶然に、今日のようなパソコンができたとは誰も言わないでしょう。そのようなことを信じる人などおそらく一人もおられないでしょう。なぜならば、パソコンの設計と組み立ての背後には、知性があるからです。

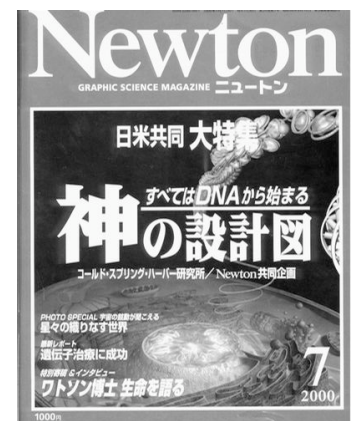
私たち人間も、創造主が「目的」をもって、知恵を用い、お造りくださった作品なのだという事を聖書は語っています。最近、科学者が遺伝子について研究をした結果、すべてはDNAにあらかじめ書き込まれているプログラム、すなわち設計図のようなものがあることを発見しています。それらはあたかも暗号のようになっているので、解読という用語をもちいて、科学者たちは、自らの知恵に呼応する所のあらかじめ暗号を組み込んだお方の知性があることを前提条件として研究しているのです。

そして、このような精密な設計図が、偶然に、ただでたらめの結果できあがったとは、どう考えても思えないため、2000年7月に発行された「ニュートン」という科学雑誌の表題にも「神（創造主）の設計図」というタイトルが採用されているのです。

D. アイザック・ニュートンと太陽系の天体模型機

科学雑誌ニュートンの名前の起源となった科学者ニュートンについては、以下のようなエピソードが残されています。

ある時、ニュートンは、腕利きの機械工に命じ、太陽系の模型を作らせたことがありました。その模型が完成した頃、無神論者の友人がニュートンの所にやって来て、部屋の中に設置されている太陽系の模型に目をとめました。彼は、模型に近づくと、模型をゆっくりと動かしてみて、驚きの声を上げ



ました。「なんて見事なんだ！いったい誰が作ったんだい？」

それに対し、ニュートンはこう答えたそうです。

「誰も作りはしないさ。偶然、今朝起きたらここにできていたんだよ」

「冗談はよせよ。誰かが作らなきゃこんな精巧なもの偶然にできっこないだろう」と友人は言いました。

するとニュートンは、読んでいた本を下に置きこう言ったそうです。

「この模型は、壮大な宇宙の天体をまねた、粗末な作り物にすぎない。この単なるオモチャのようなチャチなものでさえ、設計者も制作者もなしに、突然、偶発的にできあがったと僕が言ったら、君は、そんなこと信じられないと言ったね。ところが君は、この模型のもとになった偉大な本物の太陽系が設計者も制作者である創造主もなく出現したと無神論を主張し続けているではないか。いったいなぜ、そのような矛盾した結論が導き出せるのか、僕に説明してくれたまえ」

アクション・ポイント（生活への適用）

1. 私は、創造主なるお方を個人的に知っているでしょうか。伝道者の書11:9-12:1を読み、黙想してみましょう。
2. 私は、創造主の偉大さを認め、畏敬の念をもち、へりくだっているでしょうか。それとも、創造主を無視し、作品である被造物（太陽や山、海、狐や蛇のような動物）、あるいは死者などを恐れ、それらのものを拝み礼拝行為をしているでしょうか。
3. あなたは、創造主なるお方のことについて聖書からもっと知りたいという願いをもっておられますか。私たちは創造主イエス・キリストについて学び、恐れ、敬いつつ、主に喜ばれる毎日を送りたいものです。そのためにあなたはどのようなことをしたいと思われますか。